

ESGアナリストの可能性

近江 静子 CMA

目 次

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. はじめに | 4. ESGインテグレーション |
| 2. 責任投資の潮流 | 5. エンゲージメントと課題 |
| 3. ESGアナリストの責務 | 6. 終わりに |

世界で責任投資が拡大しているのは、企業の価値創造の持続性を検証するにおいてESGの視点を踏まえる必要があるとの認識が、幅広い投資家層に支持されつつあるためである。ESGアナリストには、広く柔軟で公平な視点から、環境・社会・経済に関する様々な課題を俯瞰し、企業価値に紐づけて考える統合力が求められている。

1. はじめに

世界で責任投資のメインストリーム化が進む中、運用機関は責任投資部門を新設し専任担当者の採用を拡大している。本稿では実務面からESGアナリスト（責任投資、スチュワードシップ、コーポレートガバナンスなど様々な呼称があるが、以下、本稿ではESGアナリストと呼称する）の責務や課題を確認し、今後の可能性について考えていく。

ESGアナリストの採用が、世界中の運用機関において拡大している。責任投資やESGがことさらに重視される以前から、アナリストやファンドマ

ネジャーなどの運用担当者は、当たり前のこととしてESG要素を企業評価に反映していたはずであるにもかかわらず、である。それでは、ESGアナリストには何が求められているのだろうか。

このところのESGへの注目の高まりは、企業分析の現状への問題提起にも映る。多くの運用担当者は、いまだに財務情報の短期的な分析に追われ、企業の基盤や創出される価値の将来性についての考察に十分な時間を割くことができないではないか。企業をホリスティックに把握した上で、企業価値を算出できているとの確信を持てるアナリストはどれだけいるのだろうか。運用機関は、企業価値を分析する上で必要なリソースを運



近江 静子（おおみ しずこ）

アムンディ・ジャパン(株)運用本部ESGリサーチ部長。エス・ジー・ウォーバーグ証券、リーマン・ブラザーズ証券、クレディ・スイス信託銀行を経て、2003年にアムンディ・ジャパンにて日本企業の調査に従事し、08年投資調査部長、15年より現職。環境省「環境情報開示基盤整備事業」ワーキンググループ委員、TFCDCンソーシアム企画委員会委員。国際基督教大学教養学部卒、同大学院比較文化研究科修士。